

## 地域に触れて感じたこと

活動先：NPO 法人 ゆめじろう

### 1. はじめに

サービスマーケティングを通して、地域ではどのようなことを必要としていて、学生の私たちにはどのようなことができるのかを考え続けた。夏の活動に向けて計画を立案するとき、私たちにできることは、自分たち自身が地域に触れ地域を知ること、地域の人々に福祉に触れていただく場を作ることだと考え、「納涼☆ゆめ祭り」というイベントを企画し、やり遂げることができた。その後、振り返りをしていく中で感じたことは、思いがあればどんなことでも始められる、そして思いを持って動いていけばその行動は良い方向へつながっていく、地域に触れることで問題点や解決するべきことが見えてくるということだった。

### 2. 地域からの学びとそこから活かしたいこと

何もないところから自分たちで一つのイベントを作るということを行ったのは、私にとって初めての経験だった。活動先のゆめじろうにとっても初めての取り組みであった。どのように計画していけばよいのか、何から始めればよいのかなど、最初は不安なことばかりであった。しかし、ゆめじろうのスタッフの方々からのサポートがあり、短い時間の中で着実に準備を進めることができた。出店や出し物の確保のための連絡取り、チラシの作成と戸別配布、保健所への連絡、看板作り、値段決めなどさまざまな準備をしたが、どの作業も初めてのことで戸惑いや難しいと感じることが多かった。イベントの裏方の仕事を経験し、これまで何気なく参加していた地域の行事は、さまざまな人が関わり、多くの打ち合わせや準備をしている人がいるから成り立つのだと気付かされた。ゆめじろうでも、イベントなどを通して地域と交流することが必要だと何度も話があがっていたようで、私たちが今回のような企画をしたことで、お祭りがゆめじろうの一つの事業として動くことになった。お祭りを開催させることは、NPOの事業に関わり、一つの仕事を任されているような気がしてやりがいを感じたし、一つ一つが形になっていくたびに作業が面白くなっていった。ゆめじろうの利用者の方もお祭りを楽しみにし、協力してくれたことが嬉しかった。お祭りは、子どもからお年寄りまで幅広い年齢のお客様がたくさんいらっしゃり、成功だった。多くの地域の方が集まってくださり、楽しいと感じてもらえたということは、自分たちのやりたかったものが形になり、受け入れてもらえたということだと思う。ものすごい数の人がゆめじろうに集まり、つながったのだと思うと嬉しかった。また、地域の持つ力を感じた。多くの人を集めることができた一番の理由は、ゆめじろうがああ場所で長年活動を続けてこられ、地域の人々からの信頼を築いてきたからである。私は、共同研究でNPOが地域に認知されるには何が必要かを考え、必要とされる広報活動などを提案したが、そのような取り組みの前に、ゆめじろうのように地道に活動が続けることが大切なのだと思う。地道な活動を続け少しずつ信頼を得ていくことが、NPOらしさだと考える。

この一年を振り返ると、多くのことを学んできた。また、さまざまな場面で自分の力の無さを感じ、だめな自分をたくさん知ることができた。成長できたのかは自分では実感が

無い。しかし、活動をしながら感じたこと、聞いたこと、学んだことは時間が経ってもしっかりと覚えている。次に同じようなことが起こったときや実習へ行ったときなどに、サービスラーニングでのことを活かし、対応できるようになっていたいと思う。私はこれまで、人にばかり注目していたように思う。今は、人々の生活の基盤となるのは地域であると実感することができた。地域には多くの社会資源があり、あらゆる資源を有効に活用することの大切さを学ぶことができた。地域にはさまざまな人が暮らしており、地域のために、人々のために、自分が生きやすいと思えるために頑張っている方がいることを知ることができた。今後は、相手だけでなくその人を取り巻く社会まで見られるような幅広い視点を持ちたいと思う。サービスラーニングの活動は多くの人の協力が合って成り立つ。今回の活動で、ゆめじろうのスタッフの方々の人脈の多さに驚いた。一つの出来事は次につながっていく。さまざまな経験やそこでの多くの人とのつながりを大切にしていきたいと思う。ゆめじろうのみなさんと活動をし、ゆめじろうは明るく温かい雰囲気、利用者の方はのびのびと過ごしていると感じた。これまで持っていた施設のイメージが変わった。私は福祉の現場のことを知らないのだと思った。障害者の分野にも興味を持ったので、もっと勉強していきたいと思った。リフレクションシートや活動記録を読み返すと、そのとき自分が何を感じ、どのようなことをしたのかを思い出すことができた。報告会では他のグループやクラスがどのような活動をしてきたのか、何を学んだのかを知ることができた。サービスラーニングでは振り返りをするのが大きな特徴となっていたが、一年間やり終えて、振り返ることや記録を残すことの大切さを知ることができた。読み返していると、もっと詳しく書いておけばよかったと思うところや分かりやすく書いておけばよかったと思うところはいくつかあった。記録を書くことは、今後増えてくるはずである。一つ一つの記録を大切にしていきたいと思う。

### 3. 福祉のある地域

ゆめじろうは長年あの場所で活動をされ信頼を得てきている。しかし、ゆめじろうのある場所が昔、水道局であったことから、現在も地域の方々の中には、水道局のイメージが残ってしまっているらしい。悪い団体ではないと分かっているが、ゆめじろうがどのような団体で、どのような活動をしているのか知らない人もいるのである。これはゆめじろうに限ってのことではないと思う。福祉の現場は少し周りから閉ざされていると感じる。一部の人々の中だけでさまざまな取り組みが行われているのはもったいないことだと思う。施設や福祉について知ってもらふ機会が必要である。しかし、NPOは日々の作業でその機会を作る余裕が無いのが現実である。そこで、学生やボランティアが参加し、きっかけを作ることができるのであれば、とても意味のあることだと思う。その土地でただ暮らしているだけでは地域の一員とはなかなか実感できない。周りの人々と交流を持ち、参加をすることで一員になれるのではないだろうか。けれど、そのように地域の人々がつながり合うことは簡単ではない。子どもでもお年寄りでも障害があっても、どんな人でも安心して参加でき、地域の人々同士つながることのできる場が必要であると思う。活動先のスタッフの方とは、たくさん話をすることができた。印象的だったのは、苦労したエピソードである。朝から夜遅くまで忙しく働きながらも、利用者の方がより快適に生活を送れるように考え工夫している様子を間近で見て、とても尊敬した。だが、このように頑張っている団体を支援してくれる制度があってほしいと思う。